

F M V A シンポジウムでミートコンパニオンの植村常務が講演



農場管理獣医師協会(FMVA)はこのほど、平成27年度獣医学術年次大会の市民公開シンポジウムを秋田市の秋田キャッスルホテルで開催。来場した消費者、生産者、関係官庁と獣医師を含む約100人を前に「食の安全を守る獣医師」というタイトルで、アグリフードチェーン構築により日本産畜産物の競争力強化を訴えた。

「農場から食卓へ」というタイトルのもと、座長である農場管理獣医師協会の北村直人会長が「生産現場、流通現場、消費者代表と医者との立場を通してフードチェーン構築の意味を提唱したい」と述べ、シンポジウムを開始。農水

省の大石明子氏の基調講演に続き、事例紹介では生産現場を農場管理獣医師協会の大橋邦啓氏、流通現場をミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役、消費者の立場でさいたま市消費者団体連絡会の廣田美子代表、健康について日本ファンクシヨナルダイエット協会の齊藤糧三医師がそれぞれの立場でフードチェーンの必要性を説いた。

植村常務は、繁殖牛が子牛を産み、食肉処理場を経てスーパーマーケットで並べられているパック肉となるまでの経緯を示し、「日本の個体識別番号によるトレースを活用することでアグリフードチェーン構築は他国より完備なシステムが容易にできるが、それぞれのセクシオンが現状はバラバラになっており機能していない。生産者は家畜商を、家畜商は買参人を、買参人は販売店の歩留まりや規格などの目先の利益に翻ろうされている」と指摘。「それぞれがきちんとつながり機能すれば、その商品の素晴らしさのほか、生産工程の優位性も付加価値として商品価格に反映できる。生産者が良い食材をつくり、消費者がその素晴らしい食材に感謝してフェアトレードで購入活動を続け、この機能を流通事業者や健康管理者の医師が介在することにより理想的なフードチェーンが達成される。それぞれのセクシオンが協力してまともなることが、きたるべきTPP対応に向けた最大の武器になる」と説明した。

伊藤ハムが「お肉屋さんの惣菜ベーコンカツ」を新発売

伊藤ハムは3月15日、「お肉屋さんの惣菜」シリーズから「ベーコンカツ」を新発売する。

「お肉屋さんの惣菜」シリーズは発売以降、手軽に利用できる持ち帰り惣菜として好評を博している。お客の多様なニーズにこたえるため、厚切りの自家製ベーコンに衣をつけてフライにした「ベーコンカツ」を新たに発売し、ラインアップを拡充する。商品の特長は①スモークの香りが食欲をそそる厚切りの自家製ベーコンをフライ②インパクトのある見た目と食べごたえ十分なボリューム感。希望小売価格は400円(税別)。

